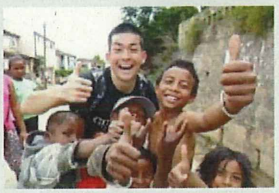
Inona ny vaovao? 何か良いことあった?

マダガスカル 青年海外協力隊 通信 第１号
発行日 ： 2017 /11/28
福長 輝倖

今回のテーマ： 日本はクリスマスとお正月へ向けて楽しく、そして忙しい日々でしょうか。一か月の語学研修が終わり、アンズズルベという町で活動している福長輝倖です。 ニュースレターのタイトル「Inona ny vaovao?」は、マダガスカルでおはようと言った後使う挨拶です。今回は、マダガスカルに来て驚いた「Vaovao（新しいこと、良いこと）」をお届けします！

福長 輝倖（*FUKUNAGA TERUYUKI*）

隊次：2017 年度２次隊
活動国：マダガスカル
赴任地：アンズズルベ
（首都から約３時間）
職種 ：コミュニティ開発
前職 ：教師(非常勤/社会科)
出身 ：岡山県・岡山市



① マダガスカルってどんなところ？-日本とよく似ている？-

○ マダガスカル基本情報
公用語：マダガスカル語・フランス語
人口： 約 2500 万人（日本の６分の１ほど）
国土： 587，000 ㎢（日本より大きい！）
首都： アンタナナリボ

マダガスカルは南半球に位置するアフリカの国です。**フランスに統治**されていたので、今でも学校でフランス語を学び、新聞もフランス語が多いです。首都を含め、国土の大部分が標高 **1000mを越える高地**に位置します。ここまでの説明をみると、日本と全く違う国のようですが、実はとても似ている国なんです。

似ているところ

① **主食が米** （日本人の **3 倍**米を消費しています）
② **アジア人に近い体型**（インドネシア人が移り住み始めた島）
③ **四季があり、一年中熱いわけではない**
④ **すごくシャイ** （意見をはっきり言わない）

実はすごく似ているマダガスカル、一度来て確かめてみては？

② 食材の宝庫 － 豊富なのに、栄養不足？！

アフリカの中で珍しく、**お米が主食**なマダガスカル。他のアフリカの国では、野菜やフルーツの生産が少ないですが、マダガスカルは肉に魚、野菜にフルーツとなんでも豊富。

野菜は、「トマト、たまねぎ、ねぎ、ニンニク、しょうが、キャベツ、 キャッサバ、ニンジン、ジャガイモ、カボチャ、ピーマン、アスパラガス、たくさんの豆など」

フルーツは「バナナ、スイカ、ライチ、マンゴー、レモン、リンゴ、青りんご、など」を市場でとても安く買うことができます。

しかし、なぜかオテリー（小さな大衆食堂）では、メニューが少なく、肉と豆を混ぜたものばかり（右の写真）。味付けは塩コショウ、ニンニクのみ。味付けや料理の種類の豊富な日本人が食堂を出せば売れるのでは？

またマダガスカルは**「栄養不足」**が深刻な問題です。「なぜ食材が豊富なのに栄養不足なの？」この問題を解決するために JICA を含めた国際機関や NGO が活動しています。

③ 水や電気は？ -3ℓシャワーだけどインターネット-

マダガスカルは、電気と水が通っていない家が数多くあります。私の家で電気が使えるのは朝 9-12 時、15- 23 時だけです。水も頻繁に断水するため、水くみに行きます。節水のため、ペットボトルシャワーで３ℓ。

しかし、場所によっては田舎でも①太陽光パネルがある(中国からの輸入) ②インターネットを使うことができます。今でも田舎では荷物を頭にのせ、徒歩で移動する人がいるのに、太陽光パネルとインターネット。来てみないとわからない。

④ 物価は？ -120 円あればお腹いっぱい-

日本人にとってマダガスカルは、「動物の王国、バオバブの木がある」など自然豊かでのんびりした国をイメージするのではないでしょうか？ 実は、マダガスカルは世界の中でかなりの貧困国（一日の生活費が 1.25 ドル（約 **150 円**）以下しか使えない人が多い国）です。そのため物価が非常に低いです。

例えば、120 円もあればお腹はいっぱいになります。マダガスカルのお金の単位はアリアリ（ARIARI）と言い、1000ARAR が約 40 円です。町の食堂で食べても 120 円(3000ARAR),自分で作れば一日 80 円(2000ARAR)も要らないです。

ただし、首都のアンタナナリボではタクシーは 1 万 ARAR(約 400 円)、レストランも高いです。

⑤ こんなはずじゃなかったマダガスカル -生活編-

イメージのマダガスカルは、「熱く動物にあふれる国」。来て分かった、そんなことはない。ここからは、イメージと違ってびっくりしたマダガスカルの生活を 5 つお伝えします。

① 寒い

マダガスカルは、アフリカなのに寒いです。今マダガスカルは夏ですが、標高の高い地域は夜に布団をしっかり被らないと寒くて寝ることが出来ません。右の写真はある日の会議の写真です。

皆長袖、長ズボン、僕は半袖。

② ペストが流行

ヨーロッパで中世（14 世紀）に流行したペストが大流行。ホームステイを 1 週間する予定が、到着した次の朝には帰宅しないといけなくなりました。アフリカといえばマラリア、マダガスカルと言えばペストです。

③ 味が薄く、テーブルに骨。

マダガスカルのご飯の食べ方がびっくりです。まず、食べ物に味がほとんどついていないです。味のついていないごはんに、**味のない汁をかけて、日本人の 3 倍の米を食べる。**

さらに、食べた後のテーブルの上がすごいことになります。骨などがあれば、お皿ではなくテーブルにわざわざ置きます。テーブルの上は肉の骨だらけになります。店員さんもいつも通り、と言わんばかりの顔で掃除をします。

⑥ こんなはずじゃなかったマダガスカル -生活編-

④ 日本語学習者がアフリカで 2 番目に多い

マダガスカルを歩いていると、「ザポネ、ザポネ！」と話しかけてくることがあります。車やオートバイ、電化製品で日本の事を知っているのか、と思えばそうではありませんでした。ブルキナファソに次いで、日本語学習者の数がアフリカで二番目に多いそうです。こんな遠く離れたアフリカの国が日本に興味を持ってくれるなんて嬉しいですね。私も、マダガスカル人の友人に日本語を教え始めました。

⑤ 洗濯物は豪快に。

右の写真は洗濯物を干している様子です。虫がたかる、犬が服の上を歩く、関係ありません。家族で日曜日などに洗濯をして、洗濯物の周りでゴロゴロと。週末は、アフリカの思い描いていた豪快さと、家族の良さを感じることができる時間です。

⑦ 私が来た理由は？-地域の人と一緒に学校を良くしよう -

最後に、私がマダガスカルで行う活動について紹介します。私の活動を一言でいえば、「地域の人と一緒に学校をよくする」取り組みです。「なぜ地域の人と？」それは、学校だけでは子供の問題を解決することができないからです。

今でも、マダガスカルを含めアフリカの多くの国では子供達が学校を卒業することが難しい状況にあります。ただし、学校がない、学校へ通うことができないという問題は少しずつ改善されつつあります。しかし、学校へ通うことが出来ても、勉強道具がない、授業を受けても分からない、など次は「**子供達の学習をどのように豊かにするか**」が課題です。

そこで、現在マダガスカルでは JICA の「みんなの学校」プロジェクトを行っています。例えば先生が地域の人にテストの点数を公表し、一緒に問題点と解決策をきめ、必要なものがあればお金を出し合って購入する計画を立てています。先日の会議では、地域の人から「家でもっと本読みをしてみるよ」「学校に居れる時間を長くできるにはどうしたいい？」など子供たちのために地域の人も意見を出していました。

この活動のモニタリング、研修の実施などが主な活動になります。2 年の活動で、少しでもマダガスカルの子供が学びやすい環境をつくっていけたらと思います。